

LS24

受験番号

2013 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

## 専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

### 受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 解答用紙は、横書きとする。
6. 解答用紙は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された解答は、無効となる。
7. 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、分かりやすい場所に書き直すこと。
8. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
9. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

## 専門論文試験 刑法

【問題】以下の〔事例〕において、甲の罪責を、具体的な事実を摘示しながら論じなさい（ただし、特別法違反の点を除く）。

〔事例〕

- (1) 甲は、平成 19 年 12 月、スナックでホステスをしていた A 女と知り合い、間もなく、神戸市北区にある A の持ち家(木造二階建て)において、A と同棲を始め、平成 20 年 6 月に婚姻した。甲は、平成 20 年春ころから仕事に就いておらず、平成 20 年 8 月頃からは、A がホステスとして勤務していたパブスナックへの A の送迎や家事などをしてきたが、勤務時間が以前より短くなったのに、ことのほか A が疲労しているように感じられ、A の素行に不審を抱いていたところ、同年 12 月初旬頃、A の財布の中に通常より多額の現金が入っていたことなどから、A が店の客と愛人契約を結んで浮気をしているのではないかと疑うようになり、A を問い詰めるなどしていたが、同月下旬頃には、これを否定する A から、逆に離婚したい旨言い出されるようになった。その後しばらく、甲と A は、隣家にも分かるような夫婦喧嘩を繰り返していたが、甲は、次第に A に対して憎しみを募らせるようになり、また、A が 3000 万円の生命保険を契約していたことから、A を殺害したうえで自宅に放火すれば、保険金収入により自分の自由に使える金が手に入るなどと考え、平成 21 年 1 月下旬頃までの間に、A に睡眠薬を飲ませて眠らせた上で、家に放火し、不慮の火災に見せかけて A を殺害すると共に、保険金を騙し取ることを決意した。
- (2) 甲は、同年 2 月 12 日午前 3 時頃、スナックから帰宅した A に対し、睡眠薬を大量に混入させたウイスキーを飲用させ、同人を間もなく昏睡状態に陥らしめた。その後、甲は、A が昏睡している居間に灯油をまいたうえで、これに点火するためにライターと新聞紙をとりだし、ライターで新聞紙に火を灯したが、昏睡状態にある A を見て、急に A が可哀想になり、急いで台所に駆けこんで水を出し、新聞紙の火を消した。甲が、A に顔を近づけると、A の顔面は蒼白で呼吸も弱くなっていたので、大変なことをしたと思い、119 番通報をし、救急車をよんだ。その際、事情を聞かれた甲は、とっさに、A が睡眠薬を飲んで自殺を図ったと答えた。
- (3) A は、ただちに K 病院の救急部に搬送されて治療を受けたため、一命を取りとめた。ところが、翌日、暴力団組員 B が K 病院の A の病室のドアを開け、突然ピストルを発砲したところ、弾丸が A の頸部に当たり A は死亡した。なお、A の病室は、数日前まで別の暴力団組員 C が入院していたところであり、B はまだ C が入院しているものと誤信していた。

以上

## 専門論文試験 刑事訴訟法

【問題】以下の項目、用語ないし原理などについて、簡潔に説明せよ（なお、判例を前提にする）。

- (1) 現行犯逮捕の要件について
- (2) 公訴時効の意義について
- (3) 保釈の意義、要件について
- (4) 裁判員裁判の意義について